

6 国語おう用力強化シート

番 名前 ()

※ かい答は、《かい答用紙》に書きましよう。

高田さんは、地いきのれきしについて調べたことをほうこくします。次の高田さんが書いた【ほうこく文の下書き】を読んで、あとの問いに答えましよう。
【ほうこく文の下書き】

「銀納義民伝」について

1 調べようと思ったきっかけ

新聞に【資料1】の記事がのっているのを見つけてました。これは、中学校で美じゅつ部員だった生徒たちが「銀納義民伝」の紙しばいを作ったという記事です。紙しばいの絵がとても上手でした。そして、この記事をきっかけにして、わたしは、きよう土資料館でもっとくわしく「銀納義民伝」について調べることになりました。

2 銀納について

江戸時代、村でとれたお米のいくらかを、との様に差し出さなければなりません。このお米のことを「年貢」といいます。銀納というのは、お米の代わりに銀を年貢とするという意味です。年貢はお米であるのがふ通でしたが、記事に出ている村は、けわしい山にかこまれて、①お米があまりとれなかったそうです。もちろん、お米が少ないので、作っている村人もお米を食べることができませんでした。

3 しょう屋の工藤治兵衛

村のしょう屋の工藤治兵衛は、お米がとれずにこまっていた村人のために、との様に、お米の代わりに銀で年貢を差し出したいと願いました。しょう屋というのは、村の代表という立場の人です。ただ、この時代、との様に意見をのべるためには、自分の命をかける覚悟が必要でした。それでも治兵衛は、村の代表として、人々のために命をかけてとの様に願い出たのです。しかし、との様は、願いを聞いてくれず、治兵衛は命を落としました。



【資料2】



【資料1】

村人たちは、治兵衛の思いに感^{かん}じやしました。そこで、「命を投^なげ出して人のためにつくした人」という意味の「義民」として、今までずっと、治兵衛のことを伝^{つた}えてきました。新聞にのっていた【資料2】の紙しばいには、多くの子どもたちに、治兵衛のことを知^ちってほしいという願^{ねが}いがこめられています。

4 分かったことや考えたこと

しょう屋の治兵衛は、村人が苦^{くる}しむすがたを見て、とてもつらかったから、代表である自分が何とかみんなを助^{たす}けたいと考えたと思います。わたしは、治兵衛が村人を思いやる気持^{きもち}ちに②感動^{かんどう}しました。

今回、わたしは、地いきに残^{のこ}る話をくわしく調べました。昔^{むかし}は、お米を年貢として差し出していたことを知りました。③また、お米がとれないことで、治兵衛や村の人々がとても苦^{くろ}勞^{らう}したことも知りましたので、地いきに残^{のこ}る話をみんなが知るためにずっと伝^{つた}えていくことは、とても大切だと分かりました。

一 高田さんは、【ほうこく文の下書き】の中の——線部②「感動しました」について、感動したことをより強く表^{あらわ}すために、「()」を打^うたれました」という言^{こと}葉^ばに書きかえることにしました。

() に当てはまる言葉として、最もふさわしいものを次のアからエまでの中から一つ選^{えら}んで、その記号^{きごう}を書きましよう。

ア 頭

イ 目

ウ

鼻^{はな}

エ 心

二 【ほうこく文の下書き】を読んでいた高田さんは、読み手に伝わりやすくするために、——線部③の一文を、次のように二つの文に分けて書き直すことにしました。

また、お米がとれないことで、治兵衛や村の人々がとても苦^{くろ}勞^{らう}したことも知りました。()、地いきに残^{のこ}る話をみんなが知るためにずっと伝^{つた}えていくことは、とても大切だと分かりました。

() には、文と文をつなぐ言葉が入ります。() に当てはまる言葉として、最もふさわしいものを次のアからエまでの中から一つ選^{えら}んで、その記号を書きましよう。

ア すると

イ しかし

ウ ですから

エ しかも

三 【ほうこく文の下書き】の中の——線部①「お米があまりとれなかった」について、高田さんは、友達ともだちから次の感想かんそうをもらいました。

【友達の感想】

どれくらいお米がとれなかったのかが分かる説明せつめいを加えるくわと、この地いきの村人たちの苦労がよく分かんと思ひます。



そこで、高田さんは、きょう土資料館かんとちようの館長かんちようさんから聞いた話を思ひ出して、——線部①の前に説明を加えることにしました。

【館長さんの話】

お米があまりとれない村の人は、本当に苦労したんだよ。自分の口には入らないお米をわざわざ近くの村から買ったたり、買うお金がなければ、借かりたりして年貢をおさめようとしたんだ。苦労する村人たちの様子ようすを見て、自分のことよりも村人のことを考えて行動こうどうした治兵衛は、しょう屋としてのせきになん感があつたんだね。



加える説明として、最もふさわしいものを次のアからエまでの中から一つ選んで、その記号を書きましよう。

- ア お米を近所きんじよの人に買ってもらわなければならないほど
- イ お米を作りすぎないようにしなければならないほど
- ウ お米をすべて食べてしまわなければならないほど
- エ お米をよそで買ったり借りたりしなければならないほど

四 高田さんは、【ほうこく文の下書き】を読み返かえして、次の【メモ】の内ようが書けているかをたしかめました。(A)、(B)に当てはまる言葉として、最もふさわしいものをあとのアからエまでの中から一つずつ選んで、その記号を書きましよう。

【メモ】

- 「銀納義民伝」について、次の二つを分かりやすく説明する。
- ・ なぜ、年貢はお米でなく(A)だったのか
 - ・ なぜ、しょう屋の治兵衛が(B)とよばれているか

ア 銀 イ 紙 ウ 義民 エ 代表

6

国語おう用力強化シート かい答用紙

番 名前 (

)

一

二

三

四

A

B

シート6

正答例_{れい}

一
エ

二
ウ

三
エ

四A
ア

四B
ウ